

## ショートコメント vol.137 (2019年4月17日)

テーマ：2018年の人口推計の注目点

～日本人人口の推移にみられる大きな変化～

### ●2018年の人口推計

総務省が発表した2018年の人口推計によると、日本の総人口は8年連続で減少となった。減少率は年々拡大しており、18年は前年比で0.21%減と、1950年以降で最も大きくなっている。

都道府県別の推移をみると、前年比で人口が増えたのは東京、沖縄、埼玉をはじめとする7都県であった(図表1)。その顔ぶれは前年と変わっていない。その中に関西勢は入っておらず、基本的には首都圏に集中する形となっている。

上の結果をみる限り、都道府県別の動きに変化はなさそうであるが、外国人を除いた人口でみると、状況は大きく異なる。総人口で増加を維持した7都県のうち、日本人人口に限れば、前年の福岡に続いて愛知も減少に転じている(図表2)。

### ●日本人人口の増加率の鈍化

愛知、福岡といえば、東海、九州の中核を成す県である。周辺からの人口流入による社会増が大きな強みであったが、ここへきて自然減によるマイナスを補えなくなっている。

結果として、今や日本人人口が増えているのは、東京、沖縄、神奈川、千葉、埼玉の5都県のみという状況である。しかも、千葉、埼玉についても、前年比での増加率が今年になってかなり縮小しており、来年には減少に転じる可能性が高まっている。

このように、これまで日本人人口の増加率で上位を占めていた県で、鈍化傾向が目立ち始めている。すでに挙げた愛知や埼玉に加え、広島や京都などもその中に含まれる。その要因としては、死亡数が出生数を上回る自然減の進行はもちろん、転入と転出の差である社会増の縮小による影響も挙げられる。

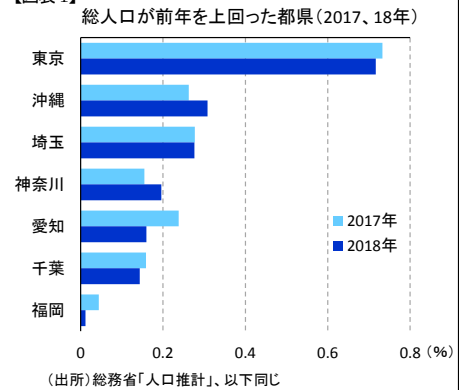
日本人人口の増加率の縮小が目立つ府県を取り上げ、その要因をみると、特に愛知、京都、広島では、社会移動を要因とした減少が目立つ(図表3)。

日本全体での社会増減の特徴としては、18年は東京や神奈川、大阪に増加が集中する傾向がみられる。従来は愛知や広島、京都に向かっていった人の流れの一部が、東京や大阪に向かったことを意味しており、今後の動きが注目される。

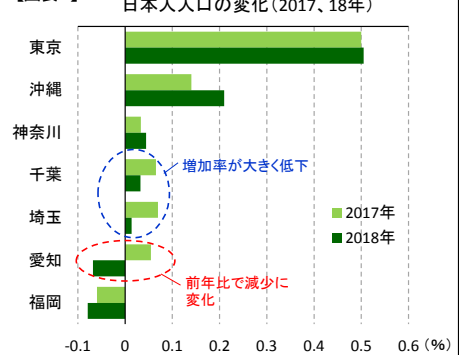
### ●カギを握る外国人人口の推移

結果として、各県にとっては人口を維持する上で、外国人の存在が貴重になっている。日本人の自然減が地域を問わず加速していく中、いかに外国人の受け入れが進むか

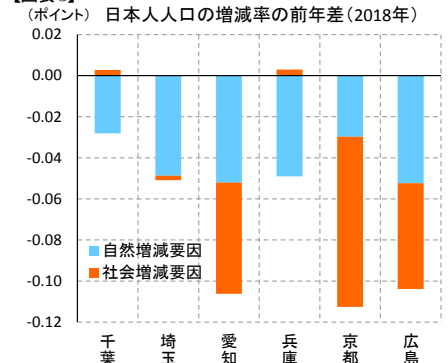
【図表1】



【図表2】



【図表3】



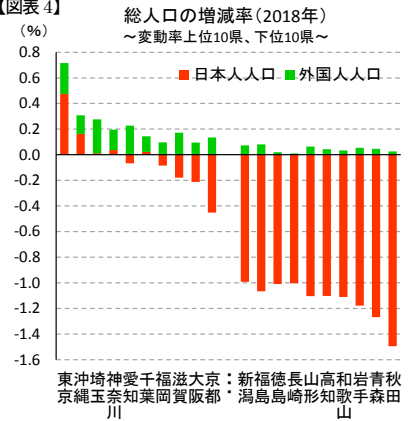
※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

が、人口動態のトレンドにも影響を及ぼすようになっている。

18年は全国で外国人人口が約16.7万人増えたが、うち東京が3.2万人（全体の19%）、埼玉が1.9万人（同11%）、愛知が1.6万人（同10%）と都市部に偏っている。地方圏でも増えているものの、増加率の差は大きく、結果として総人口の上位県と下位県の格差拡大につながっている（図表4）。

この春からは新たな在留資格「特定技能」が導入され、外国人人口の動態にも変化が出てくる可能性が高い。引き続き大都市圏に集中するのか、それとも地方圏への分散が進むのかが注目される。

【図表4】



本件照会先: 大阪本社 荒木秀之  
TEL:070-6633-0038 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。